道徳学習指導案

指導者 大崎上島町立木江小学校

平原 真幸

- 1 日時 平成21年7月6日(月)第3校時
- 2 学年 第4学年 9名
- 3 主題名 くじけず最後まで 1-(2) 不撓不屈 努力
- 4 ねらい 苦手なことを克服しようと努力するぼくの気持ちを考えることを通して、自分でやろうと決心したことは、粘り強く最後まで努力し、やり遂げようとする態度を養う。
- 5 資料名 「ぼくのへんしん」(出典:道徳 明るい心で 東京書籍)
- 6 主題設定の理由

○ ねらいとする価値

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなくてはいけないことをはっきりととらえ、それをやり遂げることが大切である。そして、そこには、何事も粘り強くあきらめないで取り組み、努力し続ける力が求められている。また、ただやみくもに取り組むのではなく、見通しを持ちよりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されていくといえる。そのためにも、自分がやらなくてはいけないことだけではなく、さらに自主性を発揮し、より高い目標の達成や自分の夢や希望の実現に向けて、意欲と勇気をもって取り組むことが重要である。

中学年の段階においては、興味関心の幅が広がり、やる気も旺盛になってくる。しかし、ちょっとしたことでの失敗やつまずきがあると、たちまちやる気を失ったり、自分はできないと自己否定をしたりしてしまうことがある。また、困難に立ち向かうより楽な方に流れやすく、当初設定した目標を到達できずに終わってしまうこともしばしばである。だからこそ、自分がやらなければならないことだけでなく、さらに自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる態度を育てることが大切になる。

○ 児童の実態

本学級の児童は、授業の初めに、各学習時間の中でのがんばるめあてを確認してから学習を始めるなど、普段から目標を設定して授業に臨んでいる。また、自分を成長させるため、1年間という長いスパンでのチャレンジ目標を設定し取り組んでいる。その結果、授業の中で、めあてを意識して、考えたり発表したりする児童が増えてきた。また、チャレンジ目標については、休憩時間や放課後を使って、自主的に練習をしたり、取り組んだりする児童も増えてきた。しかし、目標を達成させるためには自分がどのように努力したらよいのか、具体的な方法までは考えが及ばないなど、目標を立ててはいるが、立てただけに終わってしまっている児童がいる。また、生活目標や学期の個人目標など、自分たちで考えて目標を設定し、最初はやる気をもってがんばっているが、途中で成果が出なかったり、失敗をしたりしてしまうと、あきらめの気持ちが強くなり、努力し続けるという点で弱い面がある児童もいる。

○ 資料について

本資料は、運動が嫌いなぼくが、家族の励ましや、本人の努力によって苦手な運動を克服していき、自分に自信を付けていくという内容である。ぼくは、運動が苦手で、そんな苦手なことをごまかし、自分の姿を見つめることを避けていた。しかし、ある時、お母さんの言葉をきっかけに奮起をし、テレビ体操を毎日続けて、第1の目標を達成する。そして、第2の目標を立て、足かけ後転ができるように毎日の練習に励む。友達から「ゆうじくんは、へんしんしたのです。」との称賛を受けることで、自分の変容を感じ取り、さらに自分に自信を付けていく。

ぼくのへんしんぶりから、自分で決めたことを続ける大切さと、やり遂げたときの達成感、そして、努力することの大切さを感じることができる資料である。

○ 指導にあたって

指導に当たっては、まずは、誰もがもつ苦手なことや嫌いなことを避けようとする弱い心に共感させる。そして、その弱い心が変わっていく姿を考えることを通して、ぼくの強い意志や、周りの支えがあったからこそ、達成できたことを理解させていく。また、目標が達成できたときの気持ちを考えることを通して、満足感や達成感、そして、そこから生まれてくる自信に気付かせていく。中心発問では「へんしん」の意味を考えさせることで、がんばるという前向きな強い心の大切さを押さえていく。

展開後段では、これまでの自分やこれからの自分について、ワークシートを活用し考えを深めていけるようにする。

さらに、ワークシートに書き込んだものを基に、ペアトークを行い、自分の思いを一層強めたり、自信をもたせたりしていく。

7 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. 自分の今の目標を振り返る。	○みなさんの1学期の目標は、何ですか？ ・算数がんばる。 ・漢字をしっかり覚える。 ・一輪車に乗れるようになる。	○自分の目標について、確認させる。
展	2. 「ぼくのへんしん」のお話を読んで話し合う。 ① お母さんの言葉を聞いたぼくのお母さんの言葉を聞いて、どんなことに気が付いたでしょう。 ・本当は、下手なのに、みんなにいいかっこしていた。 ・できるふりをしていた。 ・できないことをごまかしていた。 ・苦手なことから逃げてばかりいた。 ・あきらめていた。 ・このままじゃ、できないままだ。 ・なんとかしなくちゃ。 ・今のできないままじゃいやだ。	○ぼくは、お母さんの言葉を聞いて、どんなことに気が付いたでしょう。 ・本当は、下手なのに、みんなにいいかっこしていた。 ・できるふりをしていた。 ・できないことをごまかしていた。 ・苦手なことから逃げてばかりいた。 ・あきらめていた。 ・このままじゃ、できないままだ。 ・なんとかしなくちゃ。 ・今のできないままじゃいやだ。	○場面の状況から、ぼくは体育が苦手であることを押さえておく。 ○「はっとした」ことに着目させ、上手なふりをしたり、ごまかそうとしたりして、本当の自分を見ようとしていなかったぼくをとらえさせる。 ○苦手意識から、ぼくは、ごまかしの心、後ろ向きの弱い心をもっていたことを押さえておく。
開	② ぼくのお母さんの言葉と、できるよになりたいという2つの気持ちについて考える。	○ぼくは、どんな気持ちでテレビ体操をしていたでしょう。 ・何でぼくだけできないの。 ・もう、うるさいな。 ・がんばらないといけないことは、分かっているよ。 ・もう少し、がんばってみよう。 ・きっと、できるようになる。 ・ここであきらめたら、今までと同じだ。 ・がんばって続けて、本当によかった。	○時系列を追って、児童に考えさせることで、できないからやめたいというあきらめの気持ちと、できるようになりたいからがんばろうとする気持ちとの間で揺れていることに気付かせる。

展 開	③ 目標を達成した ぼくの気持ちを 考える。	○逆さの空が見えたとき、ぼくはどんな気持ちだ ったでしょう。 ・やったあ。 ・ぼくにもできた。 ・励ましてくれてありがとう。 ・自信がついてきた。 ・何だか、他のこともできそうな気がする。	○できたという達成感が、自分への 自信につながったことに気がか せる。そして、それが、次もがんば ろうという意欲へとつながっ ていったことに気付かせる。 ○自分の経験に立ち返らせる。
	④ 「へんしん」の 言葉の意味を考 える。	◎ぼくの、どんなところが「へんしん」したのだ ろう。 ・前そりができるようになった。 ・足かけ回りができるようになった。 ・あきらめていた気持ちが、最後までがんばろう とする気持ちになった。 ・体育に自信がもてるようになった。 ・何でも、がんばれる人になった。	○苦手なことができるようになった 能力の変身についてばかりの 意見が出た場合、心の変化に目を 向けさせるようにする。
開	3. 自己の生き方について の考えを深める。	○自分の中にぼくのような「へんしん」の心はあ るかな。自分の心の鏡に映し出してみよう。	○ワークシートを使って、今までの 自分を振り返ったり、これからの 自分を考えたりさせるなど、自分 のこを見つめて書かせる。書き にくい児童には、声かけをする。
	① ワークシートに 書く。	・ずっと一輪車ができなくて、くやしかった。 ・練習をしたらできるかもしれない。 ・あきらめない気持ちをもつ自分になった。 ・途中で投げ出さずに、くじけずがんばっていき たい。	○ペアトークをする中で、実態に応 じて、相手を書ききれなかった思 いを、聴き役のもう一人の児童が 引き出すような声かけをする。
終 末	② ペアトークをす る。	・分度器を使って、210° がうまくかけなかったけ ど、何度も練習をしたら、かけるようになって きたよ。 ・210° をかくのは、難しいよね。でも、何度もが んばってかいてすごいね。がんばったからかけ るようになったんだよ。	
	4. 運動会でのが んばりを思い出す。	○ビデオを見ましょう。 運動会での民舞「はねこ踊り」でがんばっている 様子のビデオを見る。	○みんなで最高の踊りをしようと 目標を立て、しんどい練習にもく じけず、最後までがんばった姿を 思い出し、新たな目標に対してが んばっていこうとする気持ちをも てるようにする。

8 評価

苦手なこともあきらめずに、努力することが大切であることが分かり、自分も前向きに努力
していこうとする意欲をもつことができたか。